

広報
市民リポーター
だより
④

桂城児童センター

仲よしクラブを訪ねて

桂城小学校の校門の右側に桂城児童センターがあります。ここでは、仲よしクラブや幼児・園児・学童スポーツクラブ、学童卓球クラブ、発明クラブなどへの指導が行われています。

友だちをつくれる子
遊べる子に

夏休みのある日、桂城児童センターの「仲よしクラブ」を訪ねました。

伺ったときは、午前中のひとり勉強の時間でした。かわいい子供たちが、長机の回りにひざを折って座り、計算や漢字の練習に一生懸命に取り組んでいました。この子供たちを指導されている方(厚生員)は、経験豊かな大槻さん、若さと情熱で取り組む武田さんと長谷部さんです。大槻さんからお話を伺いながら、子供たちの動きを追ってみました。

このクラブは、毎週月曜日から金曜日までの放課後に行われますが、夏休み中の日課は、ひとり勉強→自由遊び→昼食→絵、工作、水泳、野球、ドッジボール等→おやつ→パソコン、体育(竹馬、トランポリン、ローラースケート等)で、午前九時から午後五時までとなっています。その他に料理教室や劇の鑑賞などの行事も行われ、

子供たちはゆったりとした日程の中で生き生きと動き回っています。夏休みでも一日中仲よしクラブで遊んでいられるので、子供たちの表情は明るく、キラリと光る感性が見られました。こうした友だちの輪の中で、子供たちに純真な友情が芽えることでしょう。

大槻さんは「母子家庭の子やカギツ子、ひとりっ子、友だちのいない子など、小学一年生から三年生までの七十人がクラブに入っています。この子供たちが、友だちをつくれるようにすること、そして遊べる子供にすることがこのクラブの大きなねらいです」と話していました。

親同士の
連携が大切

小学校低学年時代、放課後は外で遊び、夕方は家で復習と手伝い、夜には家族団らんのひとつを持つ。食欲があり、早く就寝して朝きげん良く目ざめられるような生活をすれば、その後の成長にも大きな障害はないはずです。

しかし、この当たり前のことがいかに困難な時代になってきているか、テレビやファミコン、塾にけいこごと、子供たちの時間を食うものが次々に生まれています。

父親は一生懸命働き、母親もまた家計の一助にと家庭をあげざるを得ない社会情勢。そのしわ寄せを受けるのは子供たちです。それゆえ、親同士の連携が大切ではないでしょうか。

太陽の下で

心と体、心

このクラブではまず、友だちをつくることから始まりますが、そのために「元気のよいあいさつ」ができるよう、クラブでも家庭でも指導しています。また、ファミコン台風による「テクノストレス」症状が増えている今、遊びを創造

できる子供たちを育てるため、太陽の下での心と体づくりを進めています。

今の子供に「異星人」というレッテルがはられています。ファミコン相手の遊び、陰湿ないじめ、確かに子供たちは昔と違ってきています。大人はこの変わり様にとまどい、「今の子供はわからない」と言っている昔ながらの「子供らしさ」を見落しがちです。

先日ある公園で、子供たちが「おにごっこ」をやっているのを見ました。その中で、おにごっこまるとおにをなぐる子供がいました。おにごっここのルールを理解していないのか、理解していてもいざとなると自分のことだけしか考えないのでしょうか。その子を止めようとする子供、批判する子供もいました。彼らが、人の弱さを認め合いながら、それぞれの年齢なりの理解のしかたで解決することを身につける

けたら、毎日汗をかきながら笑顔で遊べる「昼間の兄弟」として育つのではないのでしょうか。ファミコンは、物を仲立ちとした遊びです。全面的に否定するのはなく、これを乗り越えていく遊びが大切です。

人と人とのきずな

人間とは人の間と書きます。「友の憂いに我は泣き、我が喜びに友は舞う」——人と人とのきずなは貴いものです。挫折を知らない現代のエリートたちが時に犯す大きな過ち。これは、彼らが育つて来た少年時代に何か欠けていたのではないのでしょうか。野に咲く花に心を寄せ、美しいものに素直に感動する心が……。

戦中、戦後と読み継がれた吉野源三郎氏の著書の中の一節につき言葉があります。

中学二年コペル君の言葉「僕は全ての人がお互いに良い友だちであるような、そういう世の中が来なければいけないと思います。僕は、それに役立つような人間になりたいと思います。」

仲よしクラブは、ひとり勉強から自由遊びの時間になりました。好きな本を読む子、絵を書く子、ドッジボールや野球で走り回っている子供たち、楽しげに遊んでいる子供たちはきっと本当の友だちを見つけたのだでしょう。この子たちの幸せを念じながら、児童センターに別れを告げました。

広報市民リポーター

秦 震 (鉄砲場)



▲大槻さんに取材する秦リポーター (左)

◆「広報市民リポーターだより」は、6人のリポーターが独自に取材した記事を掲載しています。